

第709回

## I B C番組審議会 議事録

— 議 題 —

I B Cテレビ

「I B Cテレビ放送66周年

いわてクロニクル ～そしてこれから～」

2026年4月21日(火)

(株) I B C 岩手放送

## 第709回IBC番組審議会

1. 開催日時 2026年4月21日(火) 午前11時

2. 開催場所 IBC岩手放送 Dホール

3. 委員の出席 委員総数 9名

出席委員 8名

出席委員の氏名

副委員長 熊谷 志衣子

委員 龍澤 尚孝

後藤 高宏

菊地 文彦

柴田 千春

高橋 司

郷右近 勤

繁田 奈菜子

欠席委員の氏名 田代 高章

会社側出席者

眞下 卓也 代表取締役社長

八木 宏樹 常務取締役編成局長

兼平 宗彦 取締役メディアセンター長

大志田 融 報道制作部長

鹿野 真源 報道制作部ディレクター

事務局

藤原 崇史 番組審議会事務局長

平澤 泰志 番組審議会事務局員

4. 議題

IBCテレビ

IBCテレビ放送66周年 いわてクロニクル ～そしてこれから～

3月25日(水) 午後8時～午後9時58分 放送

## 5. 議事の概要

### <委員の主な発言>

- IBCテレビ66周年を記念する特番として、神子田朝市・みちのくプロレス・震災語り部・三陸鉄道という4つのパートで構成。先人の熱意を現在の視点から振り返りつつ、若い世代の姿を通じて未来へとつなぐ構成は丁寧で見応えがあり、テレビ報道の力・映像の力を再認識させてくれた。
  
- 特に若者をフィーチャーした点がリアリティをもって表現されており、岩手に生きる人々の姿を誠実に描いた各VTRは高品質だった。三陸鉄道開通に至る「一石署名運動」など、初めて知る歴史的経緯を学べる内容でもあった。
  
- コメンテーターとして出演した作家・柚月裕子氏のコメントは的確で番組に深みを与えた。釜石出身・山形在住という立場から岩手を客観的に見つめる視点が効いており、地元の人々の気持ちを丁寧にすくい上げていた。
  
- 一方、番組タイトル「いわてクロニクル」の意味が視聴者に伝わりにくいとの指摘が複数あった。「クロニクル=歴史的記録」という意味をオープニングのナレーションで一言添えるべきだったのではないか。
  
- 「クロニクル」の語感と前田アナウンサーら歴代映像のオープニングから、IBCテレビの歩みそのものを振り返る内容を期待したが、実際のアーカイブ紹介は終盤のわずか数分にとどまり、物足りなさが残った。2時間という尺を考えると、局の歴史をもう少し掘り下げてほしかった。
  
- みちのくプロレスの初期は往年のディレクターあつてのものというのが伝わった。他のテーマのところでも作り手が登場して取材過程や思い出を語る構成も考えられたのではないか。
  
- 番組の締めくくり方として、スタジオ出演者のゲストが「テレビあつての朝市の部分もある」「テレビはたくさんの人に知られるので」と話していたが、岩手の人々を主体とした終わり方でも良かったと感じた。